CROSS

NBU総合インタビューマガジン

N-SPO
目指せ！日本のエース

N-CUL
「鳥人間」に全力投球！

Professor's ROOM
学部長が考える、幸せの鍵とは!?

N女がゆく
日本茶教室で女子力アップ

NBU COLORS

特集

授業だけでは学べない大切なこと。

21
2018
SEPTEMBER

SPECIAL
CROSS TALK

授業だけでは学べない大切なこと。

異なる専門分野で4年間学んできた3人の学生たち。
勉強はもちろん、それ以外の活動で学んだことのすべてが、それぞれの糧になりました。
その3人が「自分たちを成長させてくれたもの」について、熱く語り合いました。

いろいろ違う3人、すぐに意気投合！

迫屋　僕は航空宇宙工学科、後藤くんは建築学科、藤内くんは経営経済学科。学科がそれぞれ違うから普段は接点がないんだけど、聞いたところによるとふたりは幼馴染なんだって?!

藤内　ふたりとも佐伯市で生まれて、幼稚園と小学校が一緒だったんだよね(笑)。

後藤　そうそう(笑)。途中で藤内くんが別府に転校したけど大学でまた一緒に！

迫屋　すごい偶然だね！ちなみに、NBUに入学したのはどうして?

後藤　NBUの良さは先輩方からもたくさん聞く機会があって、せっかくNBUの附属高校に通っているんだから、そのまま大学に進学しようと。高校は情報技術科だったけど、建築を学びたくて工学部の建築学科に入学したんだ。

藤内　僕は商業高校出身なんだけど、もっと経営や経済について、より専門的な勉強をしたいなと思って。それと、部活動で取り組んでいた弓道を大学でも続けられることも大学選びのポイントだった。

迫屋　なるほど。僕は山口県出身で、航空関係の勉強をしたかったことが一番の理由なんだけど、人間力育成プログラムに魅力を感じたこともNBUを選んだ大きな理由だった。ボランティア活動が盛んだと知って、自分もやってみたいなと思って。

後藤　高校の時からボランティア活動はやってたの?

迫屋　高校ではバスケに熱中していたから、ボランティアには取り組んでいなかった。でも、大学ではボランティア活動をたくさんしたほうが、大学生だからこそできる良い経験になると思って。やっぱり、ボランティアを通して、たくさんの人と関われてすごく良かったと思う。

藤内　経験といえば、みんなアルバイトはしているの?

後藤　1年生の夏からファーストフード店でアルバイトしているよ。今はシフトマネージャーを任されるようになって、「マネジメント」の良い勉強にもなっている。

藤内　わかる。アルバイトって、続けていると自分自身で成長を感じることがあるよね。僕はスーパーで売り場とレジ打ちを担当しているんだけど、だんだんお客さんと話す余裕が出てきて。今では、いろんな年齢層の方々と話せるようになった。

迫屋　僕も1年生の夏から塾で個別講師のアルバイトをしていて、中学生に勉強を教えている。でも、自分では分かっている事を、分かっていない相手に教えることって難しくて…。「昨日教えたじゃん！」と思うこともあるけど(笑)できる限り、丁寧に説明することを心がけてる。もちろん勉強に影響が出るほどだと良くないけど、アルバイトも大学の時だからこそできる貴重な経験だよね。

たくさんの経験が「成長」させてくれた。

後藤　藤内くんは留学もしていたんだよね？ 自分で決断したの?

藤内　うん。留学生の多い別府市に住んでいるから、外国の人と触れ合う機会が多かったり、ホームステイを経験した先輩が身近にいたり、いろんな縁があって3年生の夏にアメリカに行ってきた。英語は全く喋れなかったんだけど(笑)。だからこそ、そんな自分が海外でどれだけ生活できるのか試してみたかったというところもあるかな。

迫屋　実際に留学してみて、どうだった?

Member Profile

工学部 建築学科4年
後藤 大史（Daishi Goto）
（大分県/日本文理大学附属高校出身）

就職先　清水建設 株式会社

今回の対談で「同じNBU生でも、やっていることは全然違う！ いろんなことができる幅の広い大学なんだ」とあらためて実感。探究心が強く、1年生のときからFM大分のラジオ番組「OITA CAMPUS」でもDJを担当している。

豊後大野市の「ふるさと体験村」に五右衛門風呂を設置した実習では、現場監督としてチームを率いた。

藤内　ジェスチャーや片言の英語でも意外とコミュニケーションが取れて、すごく楽しかった！もともと人見知りはしないんだけど、頑張って伝えようとすれば伝わる。大事なのは「笑顔」だね。だけど、英語を話せるほうがもっと円滑にコミュニケーションが取れただろうから、もっと英語を勉強しようと決意するきっかけにもなった。大学生活のいちばんの思い出になったな。ふたりは？

後藤　僕は研究だね。3年生から西村研究室に所属していて、研究室ではすごく中身の濃い時間を過ごしたと実感してる。そして誰よりも勉強した自信があるよ！（笑）

迫屋　どんなことを勉強しているの？

後藤　毎回、有名な建築家の作品を分析して、その分析内容をプレゼンテーションして、先生にアドバイスをもらうんだ。1年間、何度も回を積み重ねて、知識はもとより「プレゼンテーション能力」も向上したと思う。

藤内　それは貴重な経験だね。自分自身の中で「変わった」と感じる部分はある？

後藤　以前とは建築物を見る視点が変わった。より詳しく見るようになったかな。梁や柱を見ると、建築のことがわかってきたなあって実感するよ。それから、大学COC事業の一環で豊後大野市の「ふるさと体験村」に五右衛門風呂を設置した実習も思い出深い！僕は1年生の時からプロジェクト科目で「ふるさと体験村」のある土師地区での地域活性化活動を続けているんだけど、今回は現場監督として工程表を組んだりして、設計も工程も自分たちで考えた建物が実際に建つという「経験」を学生のうちにできたことは幸せだと思う。

藤内　すごいね！五右衛門風呂って、一般の人でも入れるの？

後藤　年に1回、ふるさと体験村の開村式が開催されるんだけど、親子連れの方々が来て、入ってくれたよ！

迫屋　そういう経験は自分自身の宝になるよね。僕も、佐賀関の子どもたちと自然環境保護活動を行う「キッズスマイルプロジェクト」でリーダーをしていて、良い経験をさせてもらったなあ。子どもたちだけじゃなくて高齢者の方も参加する取り組みなんだけど、両者のパイプ役になることを心がけた。

後藤　パイプ役ってどんなことをしたの？

迫屋　まずは、僕たち大学生がやるべきことをしっかりと理解して、学生同士での情報共有、連携を大切にした。僕はその取りまとめをしつつ、子どもたちにも高齢者の方々にも分かりやすく伝えることを心がけた。なかなか伝わらなくて、くじけそうになったこともあるけど、それも良い思い出になったし、良い経験ができたと思っているよ。

充実した4年間！さらなる飛躍を誓って。

迫屋　4年間、いろんなことがあったけど、お互いそれを社会で活かせるといいよね。みんな卒業後はどうするの？

藤内　福岡にある貿易関係の会社に就職する予定。海外と繋がることができる会社だというところに惹かれて。ヨーロッパやアメリカ、アジア全般の国々と取引をしている会社なんだ。留学した経験が大きなきっかけになったかな。

後藤　具体的に、どんな業務に就くか決まってるの？

藤内　まだ決まっていないんだけど、これまでに学んできた簿記や会計の知識を活かせるといいな。いろいろなことに挑戦できる環境だから、その中で「誰にも負けない」という能力を身に着けたいね。今の目標はもっと英語をしっかり学ぶこと。今できることをしっかりやって、いずれは新興国などに日本の商品を輸出する仕事をやってみたい！

後藤　頑張って！僕は母校の新校舎建設を手がけた建設会社から内定をいただいたんだ。建設現場にも行かせてもらったんだけど、大階段の迫力がすごくて感動したね。

迫屋　母校の新校舎を？すごい縁があったんだね。

後藤　3年生のときにも2週間のインターンシップでホテルの建設現場に通わせてもらったんだけど、現場ではタブレットが活用されていて、新しい技術を取り入れながら仕事を進めている現場のすごさを感じたんだ。あと働いている方々の人間性が魅力的だったのも、志望動機につながった。迫屋くんは、航空機の整備会社に内定が決まったんだって？

迫屋　そうなんだ。1年目は東京で、その後は全国各地の空港へ配属される。入学したときから整備士になりたいと思ってた。でも狭き門だったから心配だったけど、夢が叶って嬉しいよ。就職先の会社は、エンジンの整備、格納庫での整備…と、整備項目ごとに分社化されているところがすごいんだ。若いエネルギーもあって、みんなで頑張ろう！という雰囲気を感じたことも魅力的だったね。

後藤　やりがいがありそうな仕事だね！

迫屋　そうだね。将来は、飛行機を離陸させる指示を出す「確認主任者」になるのが夢。飛行機が離陸するときに手を振ってくれる人だね。

藤内　大学って、4年間専門として勉強してきたことのほかにも、いろんな方からいろんなことを聞いて、自分のやりたいことを探して、人と繋がって、可能性を広げるための大切なところだよね。

後藤　そうだよね。僕もいろんなところへ足を運んだし、「やり通す力」を研究室で学んだと思う。大学生の特権は、自分の時間を自由に使えること。時間をうまく使って、課外活動などに取り組んだことが自分の糧になるから、これから就職を考える後輩たちにも、どんなことにも挑戦してほしいと思う。

迫屋　僕も、主体的にいろんなことに挑戦することは大事だと思う！僕には整備士になりたいという夢があったけど、より視野を広げるためにもいろんなことに取り組んだ。ボランティア活動を通じてもいろんな知識を得られたことは良かったと思っている。大学生活の4年間は、自分がどういう人間かということを知るための貴重な時間だと感じたよ。

Member Profile

工学部 航空宇宙工学科4年

迫屋 和希（Kazuki Sakoya）

（山口県/県立西京高校出身）

就職先　ANAラインメンテナンステクニクス 株式会社

中学、高校時代からバスケットボール部のキャプテンを務めてきた根っからのリーダー気質。キッズスマイルプロジェクトでは、参加者に翻弄されつつもその素質を如何なく発揮！　春からは憧れだった航空整備士に。就職先でも活躍が期待される。

「キッズスマイルプロジェクト」では、子どもと高齢者をつなぐパイプ役として活躍した。

Member Profile

経営経済学部 経営経済学科4年

藤内 一聖（Issei Tounai）

（大分県/市立別府商業高校（現 県立別府翔青高校）出身）

就職先　不二貿易 株式会社

物怖じしない性格で何事にも果敢にチャレンジ。大学4年間でのたくさんの方々との出会いと経験からさまざまなことが糧になったと語る。アメリカへの留学経験から「グローカル」な視点で自分自身の将来像を思い描いている。

留学先のアメリカでは、持ち前のコミュニケーション能力を活かし、たくさんの人と交流を重ねた。

N女がゆく

NBU GIRLS

日本茶をおいしく淹れられる素敵女子を目指して。

体験しなきゃ、わからない！

「美」「心」「動」「学」「和」をキーワードに活動している、女子学生のための「N女プログラム」。今回は「日本茶の淹れ方体験」を実施！

講師にお迎えしたのは、創業明治38年、鶴崎にある老舗「北川園」の北川卓郎さん（NBU卒業生）。日本茶の淹れ方をはじめ、たくさんの種類の茶葉を触ったり食べたりもしながら、さまざまな知識を教えていただくこととなりました。

参加したのは約20名のN女たち。「普段飲むのはペットボトルのお茶だけ。お茶を淹れる機会がないから新鮮！」とやる気満々！早速、実際にお茶を淹れてみると、N女が淹れたお茶と北川さんが淹れたお茶には大きな違いが…。

「同じ量の茶葉なのに私が淹れたお茶のほうが色が薄い！」と気づいた学生に、北川さんからアドバイス。「基本的な淹れ方の手順は合っていますね。しかし、お茶はお湯の温度と抽出する時間、そして茶葉の量で違いが出るんですよ」。お湯の温度を冷まして適温にするためには「湯冷まし」という茶器を使用。適温で淹れたお茶は、色がきれいなうえ、甘みが増して渋みが出にくいのだとか。

参加者みんなで品質も価格も違う茶葉を触ったり食べたりしてみると、良質な茶葉は艶があり真っ直ぐで、色も濃いということを発見！「この品質を活かすためにも、大雑把に淹れるのではなく、きちんと淹れることが大切なんだね！」「毎日お茶を飲む、うちのおじいちゃんに淹れてあげよう！」と、目を輝かせるN女たち。8月にイタリアへ留学する下地言奈さん（工学部 建築学科1年）は「きちんとしたお茶の淹れ方やいろいろな日本の文化を知って、外国へ行く時に活かしたい！」という。

今回の「日本茶の淹れ方体験」をはじめ、さまざまな取り組みを通じて、メキメキ女子力アップ中のN女たち。「就職に役立ちそうなことや、教養として身につけておきたいことがたくさん学べて嬉しい！」と語る彼女たちの、今後の取り組みに乞うご期待！

今回のN女

▼同じ量の茶葉なのに淹れ方ひとつでここまで濃さに違いが

はじめて聞くお茶の話に▶じっくりと耳を傾けるN女たち

◀和室を使って、お茶の出し方も実践

たくさんの種類の茶葉を触ることのできる▶貴重な機会でした

Professor's ROOM #02

「学び続けること」が人生の幸せにつながる鍵。

経営経済学部の松下乾次教授は、30年の長きにわたり、NBUで産業界が求める人材の育成に取り組んでいる。若者がこれからの時代を生き抜く上で重要なポイントや、「学び続ける」ことの大切さについて、学部長の視点から本音で語っていただいた。

これからの時代に適応できる「力」を育むために。

私は兵庫県出身で、大分県で暮らし始めて30年が経ちました。現在、NBUでは経営経済学部の学部長として、社会・企業の変化を敏感に感じ取りながら、学生たちがこれからの時代に適応するための「考える力」を育む授業を心がけています。私の専門分野は「法学」ですが、経営経済学部の教授として、経済や商学に関連する法学の重要性や意義を伝えるために教壇に立っています。自身の歩みを振り返ると、意識的に自分の専門分野とは異なるものを選択してきましたね。若い頃から親しんでいる文学もそのひとつ。人の心の動きや、時代の変化の中での生き方が描かれているところに魅力を感じます。この点は、本学の「人間力教育」を推進する上でも役に立っていますね。学生には専門的な知識だけでなく「考える力」と「人間力」を兼ね備えた人材になってほしいと思っています。

五感を使ってものごとを感じることの大切さ。

ゼミでは、企業が社会に対して責任を果たし、社会とともに発展していくための活動である「CSR」について法学の観点から教えています。コンプライアンスやガバナンスとともに、今の時代は、自社の特徴を活かした社会的価値を創り上げ、社会との関係を積極的に築いていくことが企業に求められています。その点に関しては、実は企業だけでなく学生も同じなんです。時代に適応できる感性を伸ばして、地域社会や企業の「現場」へ積極的に足を運び、五感を使ってものごとを感じることが学生には大切ですね。

学べば学ぶほど自らの「糧」になる。

「法学」も「経済学」もそうですが、体系化されている学問からは「思考の方法」を学ぶことができます。学問することは、自らの考え方の「軸」をつくるということ。学べば学ぶほど、多様な価値観を持つ人たちのことも受け入れられるようになりますし、それが幅広い人間関係の構築にもつながると思っています。大学での4年間は、やりたいことをたくさん見つけて、貪欲にチャレンジできる絶好の機会です。人口が減少し、先行きが見えない時代の中、人生の幸せにつながる一つの鍵は「学び続けること」であると、学生たちひとりひとりに伝えていきたいですね。

経営経済学部 経営経済学科
松下 乾次

専門分野は法学、社会法学、公法学。日本とドイツの公務員制度改革、行政組織改革についての研究も行なっている。現経営経済学部長。

今注目のスポーツ選手をご紹介！

V-SPO

Softball

経営経済学部 経営経済学科4年

阿南 恵子

努力が実り、
憧れの世界へ。

NBU女子ソフトボール部で、エースピッチャーとして4年間活躍してきた阿南恵子さん。2年生のときには全日本大学女子選抜チーム（大学日本代表）に抜擢。卒業後は、日本国内でのトップチームの一つ、豊田自動織機 女子ソフトボール部「SHINING VEGA」への入団が決定している。

子どもの頃は、バスケットボールが大好きだった。ところが通っていた中学校にバスケ部がなく、競技経験のある母から勧められて始めたのがソフトボール。当初はあまり魅力を感じていなかったそうだが、徐々にのめり込んでいったという。きっかけは高校2年生のとき、先発した試合で格上のチームと戦い、勝利を収めたこと。「挑戦者の立場だったのでプレッシャーがなく、いつも以上の実力を発揮できたんです。格上のチームに勝てたことが自信につながり楽しく取り組めるようになり、高校を卒業してからも続けたいと思うようになりました」。

大学入学後、実業団の存在を知り、憧れるようになったという阿南さん。武器は168cmの身長と手足の長さを生かした速球だ。恵まれた体格に加えて、筋力やスタミナにも磨きをかけるべく、ウェイトトレーニングに取り組んだ。また30分4kmの走り込み、1日に300球の投げ込みも徹底。成果は早くも2年目に現れた。全日本大学女子選抜チームに召集されると、参加した東アジアカップでチームは準優勝。ところが、自身は1試合も投げられず悔しい思いをしたという。「ピッチャーのなかではいちばん年下で、ほかの代表の先輩たちとの経験の差を痛いほど感じました。堂々と投球できなかったんです」と当時を振り返る彼女。「今のままでは世界どころか日本でも通用しない」と痛感し、負けず嫌いな性格に火がついたという。

4年間、阿南さんを見守ってきた長澤佳子監督は「世界の舞台を経験したことに加え、たくさんの社会人チームと試合をすることで打たれても、ぶれない心の強さが身につきました。実業団の世界は、とても厳しい世界。でも、彼女にはまだまだ伸びしろがあります」と、期待を込めてエールを送る。現在の課題は、変化球を磨くこと。「同世代には負けたくないし、実業団で活躍する先輩方と対等に戦えるようになりたい。そして、将来はチームのエースとして認められる存在になりたいです」。憧れは、北京オリンピックの金メダリスト、上野由岐子選手。ソフトボール競技が復活する東京オリンピックの年、24歳になる阿南さん。日本代表入り、そしてオリンピックの舞台での活躍という周囲の期待が集まる。

あなん けいこ（大分県/県立大分南高校出身）／父はバスケットボール、母はソフトボール経験者というスポーツ一家に生まれた。地元の大分県竹田市では一日警察署長を務める程のスターとなっている。応援してくれている方々のためにも今後の活躍を誓う。

02

あくなき
「鳥人間」への挑戦。

工学部 航空宇宙工学科4年

与儀 栄輝

Birdman

N-CUL

次世代のクリエイターはキミだ！

NBU鳥人間クラブ「Wind Pilots」が、「第41回鳥人間コンテスト2018」の書類選考を通過。滑空機部門では2007年以来、11年ぶり11回目のコンテスト出場の切符を掴んだ。

Wind Pilotsが鳥人間コンテストへ初出場したのは1995年。創部当初は滑空機部門への出場を目指して機体の製作を行っていたものの、2009年からは人力プロペラ部門に移行。その後、2016年からは初心に戻り、再び滑空機部門に挑戦している。その間、2002年には「グアム国際鳥人間選手権大会」の滑空部門で準優勝を収めたという実績もある。

今回の出場を決めた機体は、2年越しで完成したもの。製作の中心となったのが、3年生のときにキャプテンとして部を率いた与儀栄輝さんだ。「高校生のときにモノづくりに目覚めました」という彼は、NBUのオープンキャンパスでWind Pilotsに出会い、入学前から「仲間に入りたい!」と思っていたとか。ところが、1年目は10人ほどいた部員数が、2年目になると7人、キャプテンを任された3年目は5人…と年々減少。実は、いちばん苦労したのが部員集めだったという。「ちょうど、NBUでは航空宇宙工学科の学生が中心となって活動しているカンサットプロジェクトチームが大会3連覇を果たした時期でした。自分たちが実績を残せなかったことが、部員減少の原因のひとつだったのかな…」。部員が少ないため、ひとりあたりの作業量は膨大に。それでも「最後までやり遂げたい」「そして先輩たちの夢も自分たちがしっかりと引き継がなければ」という強い思いを原動力に、挑戦を諦めることはなかった。

機体の製作には設計、整備、電気などあらゆる知識が必要。テレビ放映では離陸直後に着水する映像もよく目にするが、年々飛行のレベルはあがり、最近は300mを飛行するチームも珍しくない。そんな中で、長いブランクを経たWind Pilotsが目標に据えたのはチームの最長飛行記録（2003年の248.99m）を更新すること。

機体には、大きな風を呼び込もうという意味を込めて「大風」という名前を付けた。そして18人にまで増えた部員と共に挑んだ本番。記録は60.38m（第7位）という結果に。残念ながら、目標には届かなかったものの、「この部に参加し、モノづくりを経験できてよかったです」と、笑顔のなかに充実感を浮かべる与儀さん。春からは愛知県にある企業で、航空機や自動車の設計、解析に携わる予定だ。母校から飛び立ち、夢に向かって羽ばたく与儀さんはこれからも、Wind Pilotsの存続、そして来年、再来年の出場に向け、後輩たちの活躍を願い続ける。

よぎ えいき（沖縄県/県立宮古工業高校出身）／来年のコンテストでは結果を残し、部がさらに輝くことを期待。人数が増えた部を背負う現キャプテンに「知識の量は関係ない。計画を立て皆を引っ張っていく影の立役者になってほしい」とエールを送る。

様々なフィールドで活躍する
NBU 生の「リアル」に密着。
学生が描き出す、色とりどりの世界を
ご紹介します。

NBU COLORS

05

経営経済学部 経営経済学科3年
ナフッチャ アノダリ
（熊本県/県立湧心館高校出身）

学びながら拓けた将来の選択肢。

10歳の頃に熊本県へ移住してきて以来、日本での生活が長いナフッチャさんは、子どもの頃からモンゴルで日本語を習っていたこともあり流暢な話ぶりだ。言葉だけではなく、性格も「6割が日本人、4割がモンゴル人」と自称するほど。「日本人は思いやりがあり、周囲への気遣いができる。そしてモンゴル人ははっきりと自己主張ができる。私は、両方のいいところを持っていると思います」。そんな彼女がNBUに入学したのは、高校3年のときにモンゴル語の通訳に抜擢された「グローバルワークキャンプ・阿蘇」でNBUの学生活動を知ったことがきっかけ。以降、毎年参加を続けながら異文化交流の素晴らしさを体感。入学当初の将来の夢は客室乗務員になることだったが、NBUで流通やマーケティングを専門的に学ぶうち起業にも興味が湧いてきたという。その一方で、日本語教師への憧れも捨てきれず、資格取得に向けても努力中。夢いっぱいのナフッチャさんは、いつかきっとモンゴルと日本の架け橋になる、グローカリストの卵だ。

【自慢の1カット】
「日本人学生と積極的に交流することで、日本の文化の魅力に気づいた」と語るナフッチャさん。自身が感じた「異文化交流の素晴らしさ」を多くの人に届けるため、モンゴルの文化や暮らしを紹介する取り組みを行っている。

06

工学部 機械電気工学科4年
丸尾 裕大
（宮崎県/県立宮崎工業高校出身）

人との関わりが自分を成長させてくれた。

来春、地元宮崎県の「霧島酒造」への就職が内定している丸尾さん。就職試験では、4社の内定を獲得したという優秀な彼だが「2年生のとき、モチベーションがあがらず何も手につかない日々を過ごしていました」と、自分の将来像を描けずに悩んでいたという。考えなおすきっかけのひとつとなったのは、大分青年会議所が主宰する「おおいた活性化ネットワーク」に参加したこと。社会に出て働いている方々と接するうちに「将来をきちんと考え、誇りに思える仕事に就くことが大切」と思えるようになった。やがて地域活動の企画をするなかでの活動が認められ、総勢100人を束ねる学生リーダーを任された。「人前に出ることへの苦手意識がなくなり、自分が中心になって何かをやることの楽しさも感じられるようになりました」。大学生活を通じて、たくさんの人々との関わりが自分を成長させてくれたと実感している。就職後は製造部門に配属予定。「これまで学んだ機械電気の専門知識を活かし、周りから必要とされる人材になりたいですね」。

【自慢の1カット】
インターンシップは、業種の異なる4企業に参加。パンフレットなどでは分からない「職場の雰囲気」を感じながら仕事に触れることで、自分の「働く姿」を明確にイメージすることができ、就職活動に臨めた。

07

経営経済学部 経営経済学科3年
平原 陽来
（宮崎県/日南学園高校出身）

「感謝の言葉」が夢への原動力になった。

介護に携わる仕事に就く母親の影響で福祉の分野に興味を持ち、経営経済学科のこども・福祉マネジメントコースへ。イキイキと働く母が「大変な仕事だけど、感謝の言葉をかけてもらえるのが嬉しい」と語っていたのが心に残っているという。2年生の頃から、豊後大野市千歳の交流活動拠点「楽らく広場ひょうたん」に赴き、レクリエーションの企画・サポートをする活動に参加。学生の役割は、ゲームやモノづくりをしながら、高齢者や子どもたちと交流し、さらに両者の交流を促していくこと。そのなかで、最初に直面した課題は「伝える」ことの難しさだった。「言葉だけではわかりにくいので、実際にやってみせたり、どういう風にしたら伝わりやすいかをみんなで考えました」。回を重ね、一生懸命相手に寄り添うことで、母と同じく「感謝の言葉」をかけてもらえたという。この喜びを原動力に、社会福祉士の国家試験合格を目指し日々、勉強をしている平原さん。その先にあるのは「地域のため、頼りにされるような人間になりたい」という思いだ。

【自慢の1カット】
「楽らく広場ひょうたん」での活動では、参加者と積極的にコミュニケーションを図り、お互いの信頼関係も育んでいる。相手からの「感謝の言葉」が、平原さんの大きな後押しになっている。

08

工学部 情報メディア学科2年
篠田 誠也
（大分県/県立大分西高校出身）

図書館利用者を増やす「シカケ」。

学生の図書館離れが加速するなか、利用者の増加に向けた「シカケ」をしようというプロジェクトが進んでいる。これは、「ロボットプロジェクト基礎1」という授業の一環で取り組む「シカケプロジェクト」。「近づいた人を検知して、話しかけることができるvoice kitというシステムが図書館の利用促進に活用できると考えました」と語る篠田さん。「こんにちは!図書館にはいろんなサービスがあるよ!」と呼びかけたり、利用者が話しかけるだけで読みたい本を検索できる「シカケ」の設置を目指すという。現在は、試作と検証を繰り返している段階。「まだまだ認知が曖昧な部分がありますし、言葉が機械的なので親しみやすさも追求したいです」と課題も多いようだ。研究で心がけているのは、作業ペースを落とさないよう、やるべきことをリストアップすることと、仲間とその情報を共有すること。将来は、ソフトウェア開発に携わるエンジニアを目指している。「さまざまな分野で、世の中の助けとなりたいですね」と語る姿に、未来のエンジニアの息吹を感じた。

【自慢の1カット】
普段から図書館を利用することの多い篠田さん。学生にとって、将来の糧になる本と「出会う」ためのきっかけを届けたいという想いが、プロジェクトへの原動力になっている。

キラリびと

NBUのキャンパス内で「キラリ」と輝くアナタを発見!

工学部 建築学科2年

堤内 成海

（大分県/県立情報科学高校出身）

華やかな雰囲気で周囲の目を引く堤内成海さんは、高校時代に福岡でモデルとして活動した経験を持つオシャレ女子。お気に入りのシンプル&モノトーンファッションを着こなしつつ、インテリアや雑貨も大好きな堤内さんは建築学科に在籍中。「初めは設計に興味があったのですが、今はデザインのほうが好きです。将来は、家具などをデザインする仕事に就くことが夢」だとか。「学生の間に着物姿で京都のまちを歩いたり、話題のナイトプールに行ったり、たくさん旅行したいです」

CROSS

NBU日本文理大学

〒870-0397 大分県大分市一木1727

TEL 0120-097-593

大学院 工学研究科 □環境情報学専攻 □航空電子機械工学専攻

工学部 □航空宇宙工学科 □機械電気工学科 □建築学科 □情報メディア学科

経営経済学部 □経営経済学科